

第 71 回国民体育大会「2016 希望郷いわて国体」
トライアスロン競技 報告

2016 年 10 月 20 日

JTU 技術委員会 委員長 伊藤一博

JTU 審判委員会 委員長 川添 勝

第 71 回国民体育大会「2016 希望郷いわて国体 HP」

<http://www.iwate2016.jp/>

トライアスロン競技 競技日程、選手一覧

<http://www.iwate2016.jp/kokutai/seishiki>

男子公式記録

http://www.jtu.or.jp/results/2016/iwate2016_m.pdf

女子公式記録

http://www.jtu.or.jp/results/2016/iwate2016_f.pdf

トライアスロン競技が正式競技となり初めての大会となった。2011 年の東日本大震災後に岩手国体開催が決定してから地元岩手県協会、釜石協会の皆様により各コースについて議論を重ねられ、震災以降の復興、地元住民への配慮も有りバイクコースについては、協力してくれる地域を通るワンウェイのコース設計となったが、大会開催 1 カ月前に発生した台風 10 号の影響を受け急遽、コース途中で 1 度折り返す変則周回を取り入れたバイクコースとなった。

主な内容

・スイムポンツーン 2 列同時スタート

スイムコースは根浜海岸 湾内で風の影響が少ない場所で漁港の堤防を利用したポンツーンからの 1 列 4 7 名 2 列 9 4 名の同時ダイブスタートとした。

ポンツーン 2 列スタートについては、前例がない事から 4 月の廿日市大会に於いて国体で使用するポンツーンで広島県協会にご協力を頂き、テストを実施。

テスト内容は 2 列同時スタート、1 列ずつの時間差スタート（1 秒後、3 秒後、5 秒後）などを数回繰り返し実施、検証。

結果、同時スタートでも後列の前方安全確認は必要で有るものの、同時スタートで十分対応できるとの結論に至った。

但し、9 4 名で実施した場合の選手への影響、ポンツーンの揺れ、傾きなど状態を確認するために、前日の公式試永時間後半に選手に協力（任意参加）をお願いし、本番同様のスタート練習、テストを実施（参加選手 8 割以上）。

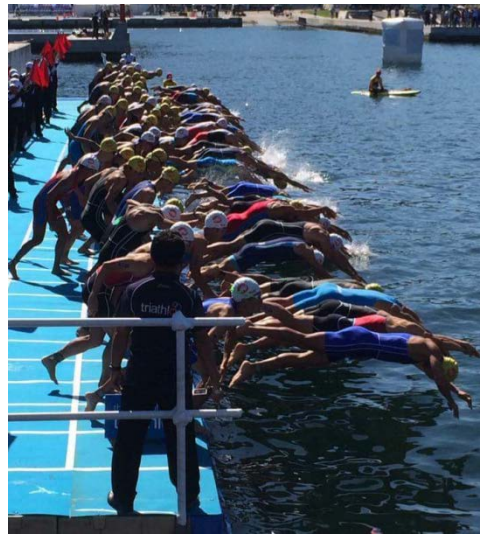
テストを踏まえ選手への影響、ポンツーンの状態（揺れ、傾き）も問題無かった事を確認、予定通り 2 列同時スタートで実施する事とした。

スタートグリッドについては、長崎国体の順位で競技説明会終了後ドロ잉を実施ご確定。

- ・ 2列のグリッドを作成



- ・ 揺れ、傾きは気になりませんでした。



- ・ ポンツードロー（模造紙に都道府県名のシールを貼って行く）



- ・ バイクコースは根浜海岸をスタートし国道、県道を経由し約20km地点のコース上で折り返す（片道7kmを往復）変則ワンウェイで設定。このコース設定に当たっては震災後の仮設住宅他、地域の皆さんへの配慮、アピールも含め地元の住民を意識したコース設定とした。
- ・ ランコースは箱崎トンネルを通過し、第9割地箱崎神社手前で折り返す2.5kmの4周回でほぼフラットなコース、距離調整と観客を意識しフィニッシュ入口近辺まで引き込み折り返しを設けた。

審判体制について

参加審判数：98名（東北ブロックの審判のみ 参加県⇒青森、宮城、山形、福島、岩手、秋田）
 エリートレースの経験も少ない審判が多い中、1ヶ月前には70名を超える審判が参加し、勉強会と現場確認を実施し顔合わせと自分の業務の確認を午前は座学で、午後は現場で1日を掛け開催した、各配置については安全を配慮し人数を多めに配置し、周りとの連携が取りやすい体制とし、チーフには経験の有る審判を配置、チーフを中心に現場での確認、打ち合わせを積極的に行って頂き、初めてのコースレイアウトにも関わらず大きな問題、事故は発生しなかった。
 当日は様々な調整事項で随時対応する場面も有ったが、それぞれの審判が意識を持って対応し、順調に終わることができた。